

ク リ ー ン セ ン タ ー ・ 環 境 課

紙おむつ リサイクル事業 視察報告

01

以下のとおり行政視察を行いましたので、その結果をご報告します。

01 10月16日(水)～10月18日(金)

02 環境課 2名・クリーンセンター 1名

03 福岡県大木町・鹿児島県志布志市

04 紙おむつ拠点収集の成果と課題
また、リサイクル(資源化)施策の状況

02 福岡県大木町について

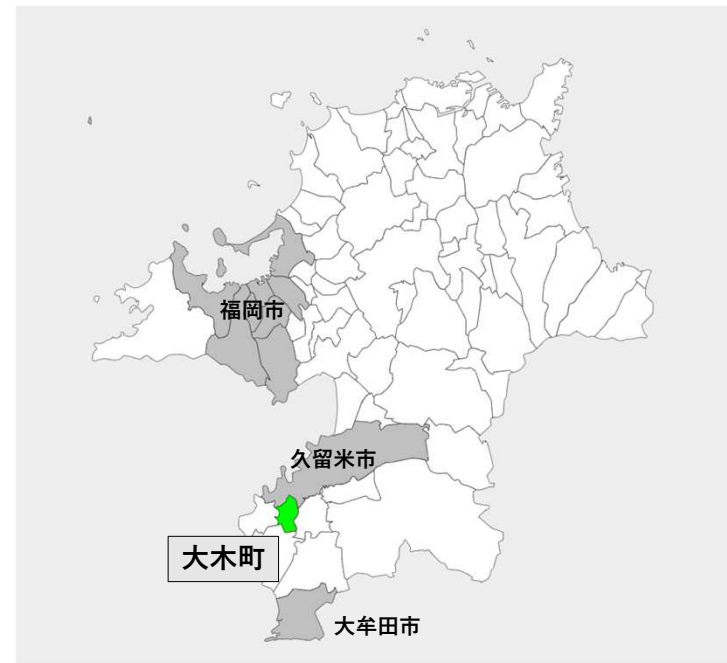
町の概要

人口：13,645人（5,254世帯）

面積：18.44㎡

農業が盛んな町でキノコ類は西日本一の生産額

徳島県上勝町に次いで、全国2番目にゼロウェイスト宣言を公表した町です。



63.9%

【リサイクル率】
(令和4年度環境省調査)

人口10万人未満の自治体のうち全国第7位のリサイクル率で、平成23年度から12年連続で10位以内にランクインしています。
ステーション収集で有料袋を採用し、29品目の分別です。

視察先選定の理由

環境省が令和2年3月に策定した『使用済み紙おむつの再生利用等に関するガイドライン』の検討委員会に、自治体代表として選出される等、紙おむつ資源化において日本を代表する自治体であるため。

03 紙おむつリサイクルへの道筋

大木町では平成18年度に生ごみの分別収集・資源化を行い、燃やすごみのうち次に減量できる可能性があるのは紙おむつであると着目し、平成23年10月から分別収集を実施しています。

1 高齢者人口の増加により
紙おむつの使用量・排出量は増加し続ける
⇒ **処理量の増加**

2 使用済み紙おむつは水分が多く、燃えにくい
がそのほとんどは焼却処理されている
⇒ **焼却施設の負担増加**

3 紙おむつには針葉樹から作られた良質の
パルプが使用されている
⇒ **資源化できる可能性がある素材**



資源化を検討

紙おむつは家庭内での分別しやすいことに加え、燃やすごみの多くを占めていることから資源化を目指しました。

事業者の協力

平成17年から水溶化処理による「マテリアルリサイクル」を開始しているトータルケア・システム株式会社が、大牟田市に専用プラントを建設したことを契機に、資源化が実現しました。

04 収集方法

大木町では燃やすごみ等のステーション収集を行っておりますが、そのステーションとは別に密閉できる専用の回収ボックスを用意し、紙おむつの拠点回収を行っております。

ニオイ対策

24時間365日いつでも排出できるため自宅で保管する必要がなく、ステーションでも臭いが外に漏れない専用BOX

プライバシー保護

ステーションより遠くすることで排出者のプライバシーに配慮

収集コスト減

各行政区に1カ所、町内59箇所に限定することで週2回行う収集の手間・コストをカット



※写真：大木町子育て交流センターに設置している回収BOX

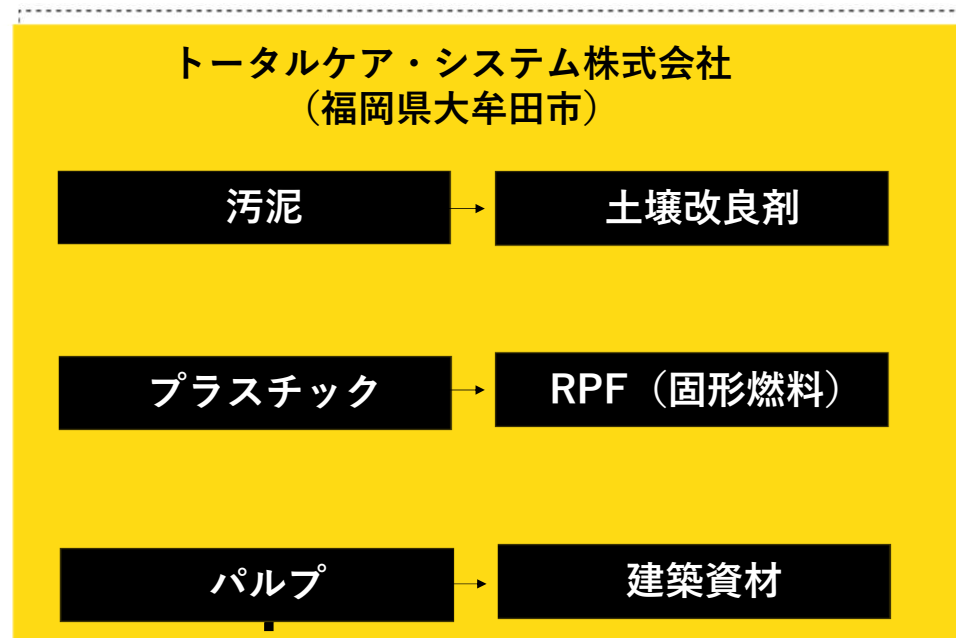
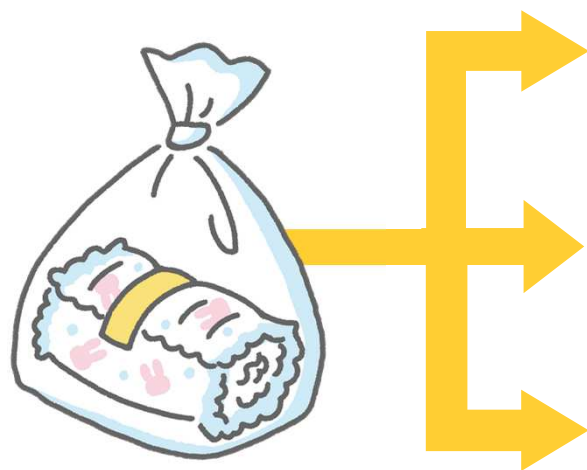
05

リサイクル方法

大木町は、紙おむつ・パット類・お尻ふきのみを対象とし、

令和5年度は106.63tの紙おむつの収集を行い、その全量をリサイクル（再資源化）しています。

ペットシートや生理用品は素材が異なるので、ミックスしてしまうとリサイクルした後の素材にバラつきができてしまうため対象外としています。



今後、再生パルプとして再商品化・水平リサイクルを目指す

06 鹿児島県志布志市について

市の概要

人口：28,774人（15,110世帯）

面積：290.28㎡

鹿児島県で2位、九州では3位の茶栽培面積を誇る、全国でも有数の茶の産地です。

ゼロウェイスト宣言は公表していません。



76.0%

【リサイクル率】
(令和4年度環境省調査)

人口10万人未満の自治体のうち全国第3位のリサイクル率で、市レベルでは18年連続で1位を獲得しています。

ステーション収集で有料袋を採用し、焼却炉がなく全量埋め立て処理しているため、26品目にわたる分別回収の徹底によりごみの減量化に取り組んでいます。

視察先選定の理由

隣接する大崎町との共同施設であるリサイクルセンターにて、使用済み紙おむつから取り出したパルプを改めてパルプにすることを実現し、世界で初めて紙おむつの水平リサイクルを実現した自治体であるため。

07 紙おむつリサイクルへの道筋

一般ごみを全量埋立て処分している志布志市では、処分場を延命するために資源化できる品目を増やす必要があったため、平成19年度から紙おむつの資源化に着目し、令和6年4月から分別収集を実施しています。

1 高齢者人口の増加により
紙おむつの使用量・排出量は増加し続ける
⇒ **処理量の増加**

2 ごみ焼却施設ではなく最終処分場を平成2年に設立するが、このままのごみ量を続けると、平成16年度には満杯となる設計
⇒ **処分場の負担増加**



資源化を検討

平成19年～平成22年

国補助事業にて処理施設建設を目指すも採算が合わず断念

平成24年～平成25年

処理施設を検討するがポリマーの処理方法が確立されておらず実現せず

協議会を発足

市・リサイクルセンター・ユニチャーム(株)の3者で協定を締結し、モデル地区での分別収集をはじめとする再資源化の実証実験を開始します。

資源化の見込みがあったためモデル地区を拡大し、令和6年4月から市内全域で収集を開始しました。

08 収集方法

志布志市でも大木町と同様に一般ごみ等のステーション収集を行っておりますが、そのステーションとは別に密閉できる専用の回収ボックスを用意し、紙おむつの拠点回収を行っております。

ニオイ対策

24時間365日いつでも排出できるため自宅で保管する必要がなく、ステーションでも臭いが外に漏れない専用BOX

プライバシー保護

排出者のプライバシーに配慮する

収集コスト減

衛生自治会の管理するステーションに各1カ所及び循環センターに限定することで収集のコストをカットする

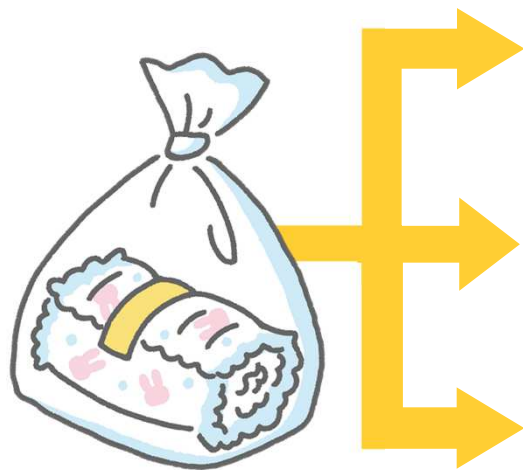


※写真：志布志市内に設置しているステーションと紙おむつ専用回収BOX

09

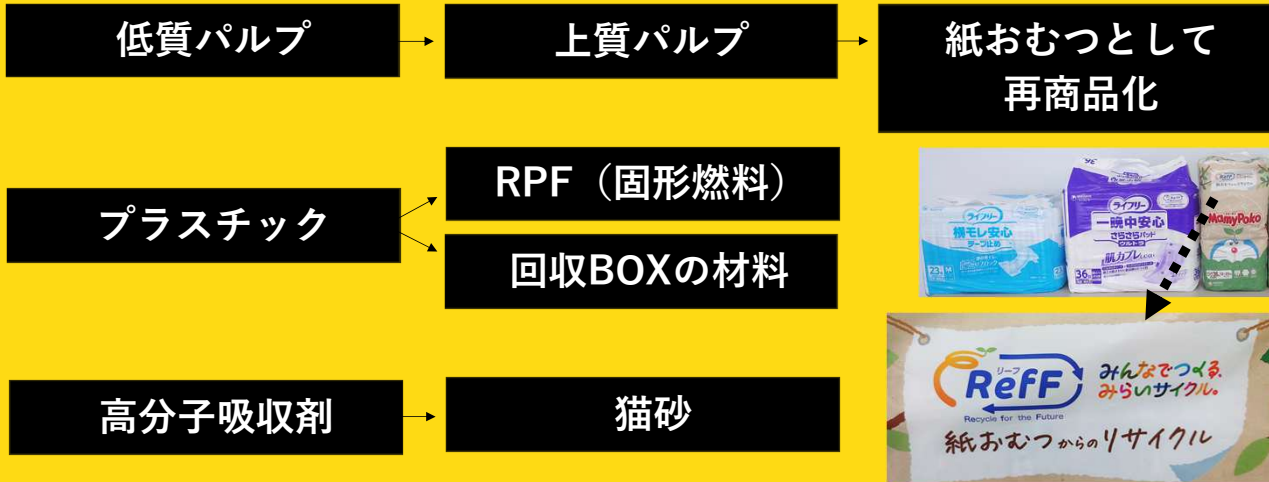
リサイクル方法

志布志市も大木町と同様に、紙おむつ・パット類・お尻ふきのみを対象とし、令和6年度は9月までに80tの紙おむつの収集を行っており、その全量をリサイクル（再資源化）しています。ペットシートや生理用品は素材が異なるので、ミックスしてしまうとリサイクルした後の素材にバラつきができてしまうため対象外としています。



ユニ・チャーム株式会社
(鹿児島県大崎町 そおりリサイクルセンター内)

世界初!



10

視察を踏まえて、葉山町の対応方針（案）

- 01 対象を紙おむつに限定
- 02 保管課題をクリアするための拠点回収
- 03 設置場所や地域ごとの数については更なる検討が必要
- 04 資源化を行う事業者の誘致と国・県への働きかけ